

あかしん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

常滑・青海 **瑞雲殿**
誠意と真心であんしんのかげはし
CSK葬祭
0120-33-5909
TEL 0569-35-2785
FAX 0569-35-2296
24時間体制完備

元氣のでてくる”ことばたち” (158)

村上信夫

(アナウンサー)



Nobuo Murakami

暦過ぎてからの予想外の出来事に、なんだか生き直している気分よ重ねて問うた。尾木ママブームの渦中で、自分を見失う心配はないかと。「ダイジョウブよ。還暦すぎてるのよ。こ

て社会変革する人が出てくることを期待している。

尾木ママの魔法の言葉

1947年、滋賀県生まれ。父は氣象予報官、母は教師をしていた。4つ上の姉、3つ下の弟がいたが、「5人家族が次々亡くなり、いまは僕一人に

村上信夫プロフィール

NHKエグゼクティブアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
現在は、『ラジオビタミン』担当。(ラジオ第一 8:30~11:50)
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元氣のでてくることばたち!』(近代文芸社)、『おやじの腕まくり』(JULA出版局)、『いのちの対話(共著)』(集英社)、『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

本を読みふける日々を送っていた。だが、本命の県立高校に合格出来なかった。この挫折体験が、その後の生き方に大きく影響を与える。入学した私立高校では、体育教師が、できない生徒を蹴るのが許せなくて、体育の授業をボイコットした。自分が教師になつてから、絶対、頭ごなしに叱らなかつた。

浪人して、早稲田大学教育学部に入學。大学時代に、いまの妻と出会う。「僕の好きな中村玉緒さんを3倍パワーアップしたような人なの。純粋な天然パワーよ。素のまま無理をしないの。」
国語教師として22年間のキャリアを持つ。教師時代の尾木さんを象徴するものに学級通信がある。手書きのガリ版刷りをポケットマネーで出し続けたら、やめられなくなった。4000号は発行した。

「どうしたの先生」とニックネームがついた。思春期の子どもたちの声に真剣に耳を傾けた。「教育は愛とロマングが大切なよ。」
1989年、42歳で教壇を去つた。体調を壊したこともあるが、弟が志半ばで亡くなったことも関わっている。

退職後、教育評論家となり、1994年に臨床教育研究所「虹」を立ち上げた。「臨床教育」としたのは、現実の問題を取り上げ、教育現場の声を代弁したいからだ。教育現場と社会をつなぐ虹の架け橋をかけたいという思いで活動している。「虹」は、弟が



俳画/イネ・セイミ

イネ・セイミプロフィール
フルート奏者として活躍中。俳画家。
絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中
常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時~三時
会費 一回 二、二五〇円(三ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六九三三五〇四七〇

おとなのフルート教室 入会受付中!!
大人でも上達する! 何か始めたいと思ってる貴女へ。数年後、素敵にフルートを奏でる姿がここにあります。楽しく個人レッスン致します。

講師 **イネ・セイミ**
(フルート奏者 指導歴30年)
1レッスン・1時間5,000円(チャイム付)
申込み 0569-89-7127
お問合せ seimine@oasis.ocn.ne.jp

ラジオが好き!

村上信夫

好評発売中

脱サラして作りあげた出版社の名でもある。弟の意志を引き継ぎたいという思いが去来する。
これまでの著書は、180冊を超える。現代を生きる子どもたち、彼らを育てる親たち、そして教師たちにメッセージを送り続けている。
子どもたちの「ありのまま」を認め、共感する。大人は無防備な子どもに寄り添い、その味方になり、愛情の盾で守る必要がある。
「でも」「だって」「どうせ」の3D言葉は使わない。その代わりに使う魔法の言葉がある。「ま、いっか」。行き詰った時、この言葉を口にした瞬間何とかかなりそうな気がしてくる。肩の力が抜ける。尾木さん自身が、教育現場で戸惑った時、肉親を失った哀しみの時、マスコミにちやほやされる時講演会で思い通りにいかない時、この魔法の言葉で乗り越えてきた。

「ま、いっか」
教育評論家 尾木直樹さん

尾木ママの自己分析
テレビにラジオに講演会に、今、ひっぱりだこの「尾木ママ」。本名の尾木直樹で、長年、教育評論にあたってきたが、バラエティ番組のタレントと誤解している人もいる。
教師退職後、臨床教育研究所を立ち上げ、現場の最新状況に即した興味深い調査研究を発表し、教育に関する本を180冊以上出し、教育基本法改正にあたって、反対の参考意見を国会で述べるなど、リベラルな立場で、幅広く活動してきた。その尾木さんが、にわか注目され出したのは、ここ1、2年のことだ。
この日もすっかりトレードマークになったブローチをつけて現れた。どんな増えて200個はあるという。「初対面の人との距離感を縮める役割があるのよ。雰囲気や和らげる格好のコミュニケーションツールよ」と柔らかい物腰で話す。
いまの異常ともいえる人気を、ご本人はどう見ているのか聞いてみた。「尾木ママという社会現象よね。安心感、癒し系のキャラを求めているから受けるのよね」と客観分析している。「還

れまでいろんな経験してるのよ。浮かれることはないわよ」
やわらかい物腰と話しかけ、昔からだった。「もともとこんなしゃべり方なの。ガールズトークはまったく苦にならないわ」。明石家さんまさんのバラエティ番組に出て、さんまさんが「尾木ママ」と呼んだことから、一気にブレイクした。
バラエティに出演するのも、より多くのの人に知ってもらいたいことが早く伝わるから。
いままで手が届かなかった層に、言葉が届いている手ごたえを感じる。脳がリラックスしている時、波長が合う形で柔らかく言われると肝心な部分が伝わるようだ。
ファンクラブも結成された。その中から、1人でも2人でも、教育を通し

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

—自分ドラマつくろう— (9) 岡田 清治

日本のゆくえ

「高校の先生ですか」
「確か女房から預かった資料をカバンに入れていました
が…」

前島は黒い革のケースを開けて、まさぐった。
「これです」
「見せてもらってもいいですか」
「名前は伏せてありますので、いいと思います」

真三は資料に目を通しながら、二人に聞こえるように声
を出して読み始めた。
そこには就職、老老介護、病院と施設、連帯保証人など身
の回りのことが、きちんとワードで綴られていた。

就職問題について言えば、我が家の上の息子は現在大学
四年で、まさに就職問題に直面しています。大学三年次か
ら、インターネットを通じてエントリーシートと呼ばれる
ものを企業に提出し、書類審査が通ったところには実際に
赴いて試験を受けていました。

公務員試験や大学院等、今後選択肢はいくつもあるもの
の、現段階で卒業後の進路が決まっていけないのです。

親の立場としては、本人のやりたいようにさせて、経済的
な面を含めて応援するだけだと思っています。大切なのは、
本人がどうしたいのかということ。そしてアドバイスが可
能な場面で親の出る幕もあるということです。親が出過ぎ
てもいけないでしょうし、子どもに任せているからと、全く
関わらない状態であるのも良くないと思います。子ど
もの長い一生のことを考えれば、親子ともども焦らずにい
けたらいいと思います。

「さすがに、しっかりしたお考えをお持ちですね」
ママが感心したようにうなずいた。

「恐らく息子さんもしっかりしているんで、安心されてい
るのでしょう」

前島も感想を漏らした。

「先を読みましようか」
「私の周りにも、母子家庭、父子家庭が多く、おられます。死
別も含めていろいろ状況があるでしょうが、やはり両親
で子どもを育てるのが理想でしょう。親の身勝手、夫婦
が別々になったとしたら、やはり子どもがかかわりそうです。
どんなに祖父母が愛情を注いでも、人生の分岐点など、母
親を必要とする場面があるはず。物理的に避けられない
状況を除いては、全ての親が良い父、良い母でいてほしい
ものです。」

「まったく同感だね」

「その通りなんだけど、そこにはやむにやまれない事情が
ある場合だってあるのよ」

「そうなんだ。俺なんかバツイチだから、こういう意見を聞
かされるとこらいいね」

「実は姪も複雑な事情があつて父親と、死別しているんで
す。だから母親が苦労しているんで、私が後見役のよう
なことをして相談に乗っているのですが…」

「それでしたか。以前は片親だと就職に不利でしたが、今
の時代、人権保護の見地から家族構成、出身地などは不
問のところが多くなったと思えますよ」

「そのようですね。新入社員の面接をやらされた知り合
いの人に聞きますと、ほとんど個人的な情報がないの
で、相手が話さない限り、よくわからないと嘆いていまし
た」

「どうもそのようですね。趣味はもちろん、最近読んだ本
とか、観た映画について聞くことも、法度だそうですね」

「だったら、採用する方も困るでしょうね」
「だから相手は話すことから推し計らなければならぬ
のですが、最近の子はパソコンなどは上手でも人とのコ
ミュニケーションが下手なので、よくわからないことが
多いようですね」

「まだ、その先生の続きがあるようですね」
「ついぶん前に九十歳で亡くなった私の義理の祖母は、長
生きした人でしたが、晩年は、「財布からおカネがなくなっ



オークランド港(ニュージーランド)の朝(著者撮影)

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を
左記のFAXかメールでお寄せください。今回は
「就職」「日本のゆくえ」「結婚」についてです。物語が
進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971
メール: takamitsu@akai-shinbun.net



プロフィール

著者: 岡田清治(おかだせいじ)
一九四二年生まれ、ジャーナリスト
(編集プロダクション・NET
108代表、著書に『夢、軌跡と
野望』百年とこれから』
『あなたは社員の全能力を
引き出せますか!』
『リヨンで見た虹』など多数

た」と騒ぐなど、認知症だったようです。

現代では、認知症も大きな社会問題になっています。私の
母は認知症ではありませんが、十数年以上前から、病気で
身体が不自由になり、父がずつと面倒を見ていてくれまし
た。父は私たちに余計な面倒をかけまいと、献身的に母の
世話をしてくれましたが、今となってはまさに老老介護で
す。

その母は昨年、腎不全を起こして入院してからは、身体
の落ち着き待って、療養病床に移り、現在は特別養護老
人ホームで暮らしています。

毎日、自宅で母の世話をしていた父は、毎日見
舞いに母の元を訪れる生活になりましたが、母が家からい
なくなり、寂しくなった反面、ほつと肩の荷を下ろした
という部分もあるようです。これからは自分の出番だろ
うと、私は感じていきます。

「何と言っても老後の問題で、みんな悩み、苦労しているん
ですね」

「昔は介護保険がなかったから、すべて家族で解決しなけ
ればならなかったんだよ」

「その介護制度も十分でなく、最近では自宅介護に切り替え
てきているから大変ですね」

「介護した者しか、そのしんどさはわからないだろうね」
「真三さんも苦労があったのね」

「まだ雇われの身だったから、本当に困ったね」
「年金、医療、介護は現代社会の三重苦です」

「これから先、どうなることやら…」
「まあ、あまり悲観してもいけないですよ。さあ、もう一つ
焼酎のお湯割りをつくりませうね」

「たのみませう」
二人は同時にグラスを口に運んだ。

「うまいね」

「話が弾むからうまいのですよ」
「善さん、まだ何か書いてありますね」

「私の小さい頃は、正月・お盆等には、母の田舎に親類中
が集まっていました。親類のお兄さん、お姉さんによく可愛
がってもらいました。それがやがて、親類が集まらなくなり
ました。あとから聞いたのは、親戚の当主である母の兄が、
連帯保証人になったがために、田畑も山も、全ての財産を
失ってしまったと言ったことでした。」

そもそも今は時代的に親戚が集まることそのものがな
くなっていくかも知れませんが、いわゆる「請け判」の怖さ
を教わった出来事でした。

「この連帯保証人は心してやらないと、根こそぎやられる
ことになりました」

「前島さんもベンチャーを起業される時、借金されたと思
いますが、この問題で悩まれたのではないですか」

「そうです。事業資金は退職金と自己資金で何とかメドが
つきましたが、運転資金がどうしても不足する時があり
ます。クライアントから振込の猶予を頼まれると、断れ
ないのです」

「そういう時は高利のカネでも消費者金融に誘惑される
でしょう」
「そうです。簡単に借りられますので、触手が動きますが
…」

「実際には手を出されなかった」
「ええ、親と善兄に頼み込んで借りました」

「そうですか。銀行とか公的資金を借りるには、手続きが
面倒な上に担保とか保証人を求めてきます。しかも時間

がかかって間に合わないことが起こりますので、簡単な
道を選ぶのです」

「会社時代のことですが、友人に保証人を頼まれましたが、
断ったことがあります。そのためにしばらく付き合いが
途絶えました。後で知ったのですが、彼は自宅を担保に
大手金融機関からカネを借りましたが、競馬と飲み屋の
借金で首が回らなくなったそうです。だから友人に次か
ら次へと保証人と借金を重ねたそうです。」

結局、行き詰まり、自宅を手放し、不足分を退職金で補う
ために会社を辞めました。そして夫婦は離婚、妻と子ど
もも失い、生涯みじめな孤独の生活をしていました」

「最後はホームレスに陥る人も少なくないですよ。名古屋
では恰好が悪いので、東京や大阪のホームレス村に駆け
込んでいくという話も聞きます」

「カネの切れ目は縁の切れ目と言いますね」
「ママもこういう商売していたら、いろいろあるだろうね」
「私のところは、大したおカネではないのですが、知り合い
のママに聞くと、有力な人に連れてきてもらった人が、改
めて自分で店に来て飲み代をつけつけて、あげくの果てに
踏み倒されるといことは、ちよくちよくあるそうですよ」

「そうだろうな。要するに信用貸しというのが怖いのです。
有力な人の連れだから、その人も同じような金持ちに
思ってしまうのです。確かに有力な紹介者の信用力は大
きいだけに、裏切られた時のツケも大きいのです」

「結局、ママに人を見る眼がなかったということになりま
す」

「それは、すべて経営者の責任だから当然ですが、人はカ
ネに弱いということでしょう」

「こうして前島さんの情報をお聞きしますと、どの人もそ
れなりに苦労していますね」

「とくに就職については以前より深刻になっているように
思います」

「そうですね」

「だいたい企業はほとんど海外へ出て行っています。若い
人もできる人は海外に目を向けています。若い人が海外
へ行かないと、マスコミなどは報道していますが、とんで
もない間違いだと思えますよ」

「私もそれを感じます。若者をひとくくりにして論じます
と、誤った情報を流すことになると思っています。現に、
私がコンサルしている研究開発型の中小企業にも社内
は英語で会議をしているところがあります。そこは欧米
に研究所を持っていて、日本の本社に欧米人も勤務して
いるからです」

「グローバルに展開している大手企業の役員会は英語で
というところが少なくありません」

「そういうことはテレビでもあまり報じませんね」

「だいたい日本は少子高齢化で、マーケティング的にも魅力が
少ないのです。その上、税金、人件費、エネルギーコストが
高いので、モノづくりの企業を中心に日本脱出を計画し
ているところは多いです」

「だけど、国内で就職率(大学院生を除くともっと下がる)が
低下すれば、社会不安が高まるでしょう」

「それはどこの国も同じだね。これからはもっと世界と共
存し、自国に留まるだけの選択は益々、厳しくなるかも
知れません」

三人はもっと楽しい話に変えようと思いを巡らした。

(続く)

ほりお教授の紀行文学シリーズ
ロマンチック沖縄旅物語(連載第八回)

ヤマネコ「さま、ご出現！」

堀尾 幸平



保護センターにある ぼく



砂浜じびろったザゴせ貝

今夏、ぼくは沖縄・那覇港で、これからイ
リオモテヤマネコに「会いに行く」という中学
生吉田海里と、いっしょに西表島に渡って民
宿「南風見」に入った。
ぼくたちは、連日、海岸でひたすらヤマネ
コを待ったが、憧れの女神・ヤマネコさまは、
姿を現わさなかった。
三日目の風雨の夜、ぼくは、浜辺で捕獲し
た魚を食べているヤマネコ親子の夢を見た
。「雨が上がったさあ。ヤママヤアが出そう
な日やね」
宿のきぬおばさんが、歯のない口を開けて
言った。
「ヤママヤア」
「西表島ではヤマネコをヤママヤアとも呼
ぶのさあ。大きいのはヤマビカリヤアとも言
うやしが」
「ぼく、今夜こそ憧れのヤママヤアに会い
たいです」
「辛抱強く、待ちなされ、気長にがんばり
よーさ。応援しとります」
「はー、ヤマネコさま、ヤママヤアさま」
海里は、両手を合わせて真顔になって祈る

仕事をした。
「センセイ、今夜は徹夜で、頑張りましよ
う。そのためにも、昼間に睡眠を十分にとつて
おこなうてはなりません。ぼくももう少し寝
ます」
海里は、まだ、疲れているらしくすぐにま
た横になった。
ぼくも彼に付き合っただけになったものの、
昨夜の子連れヤマネコの夢が気になつてな
かなか眠れなかった。
「マヤア」
夢の中のあの子ネコの鳴き声が、まだ耳
に残っている。さみしそうに首をかしげて、ぼ
くの方を見ていた、子ネコの表情がありあり
と思ひ出された。
仮眠から目覚めたのは、だいぶ日が高く
なつてからだった。ぼくたちは、もう日没も待
ちきれなくて海岸に出た。
あのへびの海辺に近づくと、ぼくは
ちほ、子どものように走り出していた。海岸
は昨夜の風雨をのぞけば、少しも変わって
いなかった。日没が過ぎると、晴れた空に、星
がまたたきはじめた。沖縄は空も海も広く
ゆつたりと美しい。
右が果てしなく広がる東シナ海、左側の崖
には熱帯林が長く伸びている。
今宵は、心地よい風に波も森もさわやかに
揺れている。
ぼくたちは、昨
夜と同じように
椅子を二脚並べ
て、ヤマネコさま
ご出現の時をしん
ぼう強く待った。
かなり時間が
経ったが、やはり、
その気配はなきそ
うだった。

ぼくはいつも同じ場所待っているだけ
でなく、少し移動してみてもいいと思った。
「海里くん、少し崖の方へ行ってみようと思
うのだが」
「先生、やめた方がいいですよ」
「どうして」
「先生も常識がないですね。ぼくらが今、森
へ入って行ったら、警戒心の強いヤマネコさま
は、逃げて行ってしまいますよ」
「そう言えは、そうだが」
「やはり、ここで待つべきです。お腹が空い
たら、海の獲物をとるために海辺に必ず出て
くるはずですよ」
ぼくは、海里の熱心な言葉に従って、それ
から更に三時間ほど待った。結局、ヤマ
ネコさまは、お出ましにならない。
四日目の夜、ぼくたちは、同じように日没
になると待ちきれない気持ちで海岸に行き、
また、ひたすら待った。正直なところ、かな
り、あせりが出はじめていた。ぼくは、日程や
スケジュールの関係で、今夜を西表島の最後
にしたし、思いがあった。
「海里くん、やはり場所を変えて、むこうの
海岸に行ってみたらどうだね？」
ぼくは、夢で見た子連れがむこうの海岸に
いることを想像して言ったが、海里は、やはり
耳を貸さずともしなかった。
「ぼくは、やはり、こしかなと思つてい
ます。ここでヤマネコがへびを食べていた確
かな証拠があるのですから」
海里の固い決意と真剣な顔つきに、ぼくも
それ以上、何も言ひ出せなかった。
右におだやかな東シナ海、左の崖側につづ
く熱帯林。天候を別にすれば、毎晩、同じ
風景である。
ぼくたちは、降るような星空のもとで、さ
わやかな風に吹かれながら、長い長い時間

ただひたすらヤマネコさまを待ちつづけた。
その夜も、四時間ほどが過ぎていった。いく
らしんぼう強く待とうとしても、やはり限度
がある。
「先生、今夜もだめなようです。ヤマネコ
さまにも何か事情ができたのかも知れませ
んね。家族が病気になるたとか、ケガをした
とか」
「それとも、ぼくたちがヤマネコさまに嫌
われたんじゃないかな」
「そんなことは絶対にありませんよ。ぼく
たちは、ヤマネコさまを捕らえたり、いじめた
りする気持ちは、全くないので」
「そうだな、ただ純粋にヤマネコさまに
ごあいさ、がしたい、だけだものね」
「純粋な心は必ず通じるはずですよ」
「でも、やっぱり今夜はだめなようだね」
「先生、帰りますよ」
二人が、腰を上げようとした、その時で
あった。
「出たー」
海里が叫んだ。
ヤマネコさま、イリオモテヤマネコだ！
前方三メートル、崖の中間に暗褐色、黒斑
のヤマネコが、長い尻尾を立てて、こちらを見
つめている。ヤマネコは彫像のように、動かな
い。こちらをじつじつとかがついている。月光の
中で、二つの眼が光っている。
「海里くん、大きなヤマネコだね」
「シッ、しっ、べらなさい」
海里が、きつく叫んだ。少年の短い声は、当
然、ヤマネコにも聞こえたはずなのに、ヤマネ
コは微動だにすることなく、尻尾を立て、鋭く
目を光らせて、ぼくらをじつじつとらみつけて
いる。
海里は、これからのぼくの動作をすべて両
手で制しながら、ヤマネコに向かって、慎重に
一歩一歩、進んで行く。

当り、周囲の闇にピカッと拡散した。
「マヤア」
ヤマネコは、短く、鋭く闇の奥まで響くよ
うな叫びを発すると、一瞬、巨大な鳥が翼を
広げたように、宙に舞い上がり、森の奥に消
えて行った。
「マヤア」
海里も狂ったように森の奥に向かって、絶
叫したが、もうヤマネコの影はどこにもな
かった。
「マヤア」
海里はもう一度大声で、わめき、ぐずれる
ように砂浜に倒れた。
ぼくは、目の前の一瞬の出来事に、言葉を失
い、ふらふらと砂浜に倒れた。
千載、遇ともいえる二つの魂の邂逅。学術
的にも極めて貴重なヤマネコと人間との出会
い、交歓の瞬間！
ぼくが、傍にいなから、こんな結末になつて
しまったことが、どうにも悔しく、残念でな
らない。
ぼくは泣いた。そして海里にわびた。
海里は泣きながら首を振った。
「センセイのせいではありません。すべて
は、ぼくが悪かったのです！ぼくは、あの時
ヤマネコさまの表情が瞬ゆるんだので、ヤマ
ネコさまが、ぼくたちの友情に免じてカメラ
撮影を許してくれた、と思つたんです」
「友情に免じて？ だいたいか」
その時の海里が、思わずカメラのシャッ
ターを押してしまったのも、やむを得ない、と
ぼくは思った。
「でも、ぼくが甘かつたんです。調子に乗っ
て待つことを怠つてしまったのです。せつち
なあまりに、ヤマネコさまとの友情を早合点
し甘くみてしまった、ぼくの罰です」
月の浜辺にうずくまる海里の目からとど
まなく涙が流れた。
もう一日、延泊して、明けの浜辺に来て
はどうかと、すすめたが、海里は首を振った。
「ヤマネコさまは、友情を裏切った、ぼくの前
には、二度と姿を現わさないでしよう」
海里は、そつとややくと、また思ひ出した
ように泣いた。
「この厳しい体験は、海里くん、これからの
人生の知恵になるにちがいない。どうか勇気
をもつてこの悲しみを乗り越えて欲しい」
ぼくが泣き震えている海里の肩に手を置
くと、彼は、素直に大きくうなずき、力強く
立ち上がった。そして、おそろく森の奥に潜
んでいるであろうヤマネコに向かって、大きな
声で語りかけた。

だが、海里は、どうしてもヤマネコさまに
直接会つて、お呼びがしたい、ということ。で、
鳴海のおばあちゃんに電話で頼んで、更に二
泊することにした。
西表島で海里と過ごした五日間、ぼくも
海里も、あのへび海岸周辺以外にはどこへも
行かなかつた。それでよかった、と思つてい
る。ヤマネコをぬきにして、西表島の観光な
ど、ぼくたちは全く興味もなかつたし、意
味もなかつた。なぜなら、あの時、瞬だった
にしろ、ぼくたちは、確かにイリオモテヤマ
ネコに会つたことができたのだから。
那覇行きの客船から、次第に遠ざかつて行
く西表島は、いっそう神秘で温かくなつた。
しくむとどりに目の奥が熱くなつてきた。
「マヤア、マヤア」(マタ、オヤ、)
その時、ぼくは、甲板で、確かにイリオモテ
ヤマネコの声を聞いたのだ。
(この項、おわり)

《筆者紹介》
ほりお・こうへい。作家、「日本
学術出版」代表。名古屋大学研究
室修了。元愛知淑徳大学文学部
教授。著書多数。現住所、名古屋市
南区元桜田町四一五五。



保護センターにある ぼく

知多の動植物雑記(二七九)

原 穰

あゝもう年末かーであるけれど、小林一茶の書いた「おらが春の巻末に」とも角も、あなた任せの年の暮の一句がある。

成る程その通り。年の暮の家事万端は女房殿にお任せだなどと思っていたら、実は大間違い。一茶の詠んでいる「あなた」とは阿弥陀様の

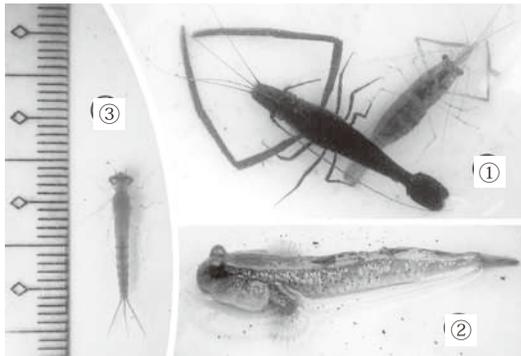
ことで、阿弥陀様の御慈悲におすがりするということが、そうして改めて我が身の軽率さを恥じる次第。とは言いながら、春から秋にかけての我が身は虫捕り魚捕りで大忙し。そんな中で

は体長十センチ程もあり、雄のはさみ足は体の二倍近くもあり実に美事。②はトビハゼ。水陸両生で、水面を飛び跳ねたり、泥の上は胸鰭を使って前進し、突出した眼を出し入れして乾燥を防いでいる。

昔は潮の引いた潮溜りに多くいた。私の小学校時代の同年会でも浜でよくトビハゼ捕りやったナ。タモ網は高くして買えなかったから、竹の棒でたいて捕ったナ」と会話が弾むが、今その姿を見るのは稀。

頃にも心躍らせたからだ。磯村さんの初恋は中学一年生の頃。季節は春。中学校の坂は桜満開の桜並木だった。淡い恋は悲しい

れ少しだけ舌舌になつてくれた。抽水窯は彫り担当の磯村さんと、ろくろ担当の兄の分業で1つの急須を生み出す。弟は兄を頼りにしている。兄の作った急須に弟が、菊や桜などの植物



写真①はテナガエビ。川の名前は書かないけれど、八月下旬に川の中流でタモ網を入れてみると、Oh！テナガエビだ！

庭にトンボが飛んでいたら目の連絡で、再び喫茶店で図鑑を見ながら、胸のところが緑が残って青っぽかった。尾は茶色っぽかったなどと

武豊町と常滑市南部、美浜町の一部は、枳豆志庄と呼ぶ荘園で、その成立は藤原道長の女で一条天皇の中宮となった藤原彰子の願いで東北院を建てた長元三年(一〇三〇)の頃です。成立当初の枳豆志庄は、固有の荘民をもたない荘民と公民が入り混じる複雑な支配構造で、荘園の土地も散在して

町内では、十世紀後半頃の南小松谷古窯で最初の陶器、灰釉陶器を生産しています。それから百年ほどの後、中世知多半島古窯群の黎明となる釉薬を施さない山茶碗や山皿、甕を生産した南蛇ヶ谷古窯第二号窯が操業をはじめ

代表する中田池古窯群では、四十三基を調査したうち七〇割の三十一基がこの時期にあたり、どの窯も山茶碗を最も多く製造していました。この窯の増加は、町内の長尾、東大高、富貴海岸台地上における中世集落の発達による人口増加と符合しています。

若竹俳壇 作品募集 毎月十日までに到着。 神無月徒然草を読み返す 具沢山二人に余るおでんかな 豊里 楓

町の考古学 奥川弘成



十三世紀の山茶碗

貴族社会の崩壊が進み、武家が台頭してくるさながら中央の役人である国司の横暴や国衙から税をのがれようとする下人在地の有力者は大規模な農地開発を行ない、新しい村落の形成が

古来の尾張国の特産物に絹や塩などとともに磁器と呼ぶ陶器があります。それは、奈良時代の後半ごろに現れ、人工の釉薬を使い緑で覆った灰釉陶器と呼ぶ白い焼き物とされています。土師器など土色の焼き物や灰色の須恵器ばかりの中で、それから、鎌倉時代までのおよそ四百年間、白い焼き物が日常の食器として流通しはじめました。

武豊町と常滑市南部、美浜町の一部は、枳豆志庄と呼ぶ荘園で、その成立は藤原道長の女で一条天皇の中宮となった藤原彰子の願いで東北院を建てた長元三年(一〇三〇)の頃です。成立当初の枳豆志庄は、固有の荘民をもたない荘民と公民が入り混じる複雑な支配構造で、荘園の土地も散在して

海福会展 十七日(土)〜二十七日(日) 常滑市民俗資料館 第三十回長三賞記念展 二日(金)〜十日(土) 企画展 常滑の名工急須への挑戦 二日(土)〜十日(日) 平成二十四年二月十七日(土) 常滑市体育館 卓球県東地区第二回普及リーグ 三日(土) 冬季市民六人制バレーボール大会 四日(日) 第六十回常滑市ミニバスケットボール大会 十日(土) 常滑市子ども会綱引き大会 十一日(日) 後援杯カデット卓球選手権大会 愛知県県立学校新人卓球大会 十八日(日) 第七回フレスコカップ中学生バレーボール大会 二十三日(金) 第五回県立高校選抜インドソフトテニス大会 男子 二十四日(土) 第五回県立高校選抜インドソフトテニス大会 女子 二十五日(日) 南陵公民館 シルバースクール ①うどん作り 二十日(火) 午前九時半〜午後一時 講師 野口正義さん(チーム・麺) 場所 南陵公民館調理室 定員 三十名 材料費 六百元 持ち物 エプロン 三角巾 ぶんぶん三枚 タオル一枚(道具拭き用、空き缶) トボトルは水筒 ②歴史講座 平成二十四年一月十一日(水) 午前十時〜同十二時半 講師 福岡猛志さん(日本福祉大学名誉教授) 場所 南陵公民館視聴覚室 定員 四十名

親業インストラクター 参加費 千四百円 問合せ 親業サークル 稲葉 72-17138 託児申込み要 家庭教育セミナー 三ツツアミ リーマの忘れ物 十三日(火) 午前十時〜正午 子育てに関する学習会と質疑応答 参加費 無料 子ども連れOK 参加自由 問合せ 知多家庭教育研究会 山下 72-19020 福寿大学 忠臣蔵よもやま話 十四日(水) 午前十時〜正午 講師 松井一夫さん 定員 五百名 (八歳以上) 参加費 無料 正月用松竹梅寄せ植え盆栽 教室 十八日(日) 午前九時〜正午 講師 武豊山野草友の会 高嶋清三さん 定員 三十名 参加費 六千円 正月おもちなし料理教室 二十二日(水) 午前十時〜午後二時 講師 浅井弘さん 定員 二十四名 参加費 一千二百円 武豊町民会館 上の映画鑑賞会 十日(土) 塔のラプソディ 午前十時〜同十二時 ②名探偵コナン 沈黙の十五分 午後二時〜同三時 四十九分 ③最後の忠臣蔵 午後六時〜同八時 五十分 武豊映画祭り(TAFFE) 十八日(日) 谷川勝明展 九日(金)〜十九日(日) キョリール 手造り急須と茶器作品展(まるま) 七日(水)〜二十日(火) 午前九時〜午後五時 常滑屋 常滑屋企画 正月飾り展 六日(火)〜二十五日(土) 常滑市陶磁器会館内 キョリール 手造り急須と茶器作品展(まるま) 七日(水)〜二十日(火) 午前九時〜午後五時 常滑屋 常滑屋企画 正月飾り展 六日(火)〜二十五日(土) 常滑市陶磁器会館内 キョリール 手造り急須と茶器作品展(まるま) 七日(水)〜二十日(火) 午前九時〜午後五時 常滑屋 常滑屋企画 正月飾り展 六日(火)〜二十五日(土) 常滑市陶磁器会館内

わが家のニューフェイス



今村 花野 (1歳2ヶ月) 武豊町道仙田

友	い	場	音	う	と	み	か
達	ま	所	楽	ー	言	ん	ら
に	す	の	と	が	わ	な	選
な	の	「	絵	得	れ	な	び
っ	で	読	本	意	ま	ら	ま
て	い	み	が	で	す	「	し
ね	こ	聞	好	す	「	愛	た
	か	か	き	元	だ	い	笑
	で	せ	で	気	い	い	顔
	会	「	す	モ	す	き	か
	っ	に	い	リ	お	ね	自
	た	出	ろ	モ	ば	え	慢
	ら	掛	ん	リ	あ	「	で
	あ	け	な	で	中	あ	「
		て	な	で	あ	し	花



ち	と	野	九
ゃ	言	と	月
ん	い	書	生
か	ま	い	ま
「	す	て	れ
季	お	「	で
語	ば	か	「
の	あ	し	花

愛とMy Family



田中 未衣菜 (5歳) 琉晟 (3歳) 常滑市西阿野

っ	キ	シ	グ	で	す	で	お
ぱ	ヤ	ま	ル	も	ベ	か	姉
い	セ	う	ジ	最	リ	け	ち
外	ち	の	ム	近	台	っ	ゃ
で	や	で	で	の	を	こ	ん
遊	い	見	す	お	し	を	と
び	ま	て	。上	え	遊	レ	一
た	す	い	の	入	ん	た	緒
い	こ	る	方	ソ	で	ソ	に
は	れ	人	ま	は	い	「	大
あ	「	を	で	「	ま	好	好
	か	ド	登	ジ	す	き	「
	ら	キ	っ	ヤ	。中	な	お
	も	ド	ン	ン	や	お	姉
	い	い	て	中	や	外	ち



ん	き	僕	田
が	な	に	中
い	5	は	琉
ま	歳	「	晟
す	の	お	3
「	お	姉	歳
い	姉	ち	で
つ	ち	好	す
も	や	好	「

鍵!かけていますか?

住宅対象侵入盗多発!!

緊急 常滑市のみなさん **注意**

◎住宅を狙った侵入盗被害が急増しています。
 ◎特に無施錠の家を狙った被害が多発しています。
 ◎あなたの家も狙われているのです!



小さなことから実践しよう

外出する時、施錠していますか?

侵入盗難防止の3つのポイント

- ★かぎ掛け
不在(外出)時はもちろん家にいる時にも鍵を掛けましょう。
- ★声掛け
お互いに声を掛け合ってみんなで、まちを守りましょう。
- ★こころ掛け
防犯について「考える」ことが、まず大切な第1歩です。できることから1つずつ習慣づけましょう。



常滑警察署・常滑工場事業所防犯協会

やっぱり木の家がいい



天然木の家
郷の家
Yume House
The Next Generation Environmental Type
Three-Zero SATOUBI.

「郷の家」モデルハウス 武豊町 梨子ノ木に誕生。

この度、郷の家モデルハウスの完成により、
 只今、話題の「郷の家」を直に体感、実感、見学できるようになりました。
 「百聞は一見にしかず」。是非一度ご来場ください。

完成見学会随時開催中!

モデルルームにスタッフが不在の場合がございます。
 ご連絡頂ければ、随時ご案内させていただきます。

ひろがる夢をたしかな道で
株式会社 東海ホームズ
 〒475-0925 愛知県半田市宮本町五丁目329番地の6
 TEL.0569-25-4399 FAX.0569-25-4396
 ■モデルハウス/愛知県知多郡武豊町梨子ノ木17番地の6
 東海ホームズ 検索 <http://www.tokaihomes.net/>



おすすめ物件多数、お気軽にお問い合わせください。
半田店 TEL0569-25-4399